

一般の正規分布・多次元の確率変数

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

確率統計 I L06(2023-05-15 Mon)

最終更新: Time-stamp: "2023-05-15 Mon 12:10 JST hig"

今日の目標

- 一般の正規分布の確率密度関数, グラフを書ける. 母期待値, 確率, 分位数を求められる. 岩薩林 確率・統計 §4.5
- 多次元確率変数の同時分布から周辺分布, 母期待値, 母共分散を求められる. 岩薩林 確率・統計 §3.3



L05-Q1

Quiz 解答: 標準正規分布の確率

累積分布関数を $F(z)$ とする. `rvz=stats.norm(loc=0,scale=1)` とする.

- ① $P(Z \leq 1.23) = \int_{-\infty}^{1.23} f(z; 0, 1^2) dz = F(1.23) - F(-\infty) = F(1.23) - 0 = \text{rvz.cdf}(1.23) = 0.5708.$
- ② $P(-0.56 < Z \leq +1.23) = \int_{-0.56}^{1.23} f(z; 0, 1^2) dz = F(1.23) - F(-0.56) = \text{rvz.cdf}(1.23) - \text{rvz.cdf}(-0.56) = 0.6030.$
- ③ $d = F^{-1}(1 - 0.025) = \text{rvz.ppf}(0.975) = 1.960.$

L05-Q2

Quiz 解答: 正規分布の確率

- ① $E[X] = 4.$
- ② $V[X] = 3^2.$

- ③ $x = 4$ を真ん中に幅 3 くらいの正規分布の確率密度関数のグラフ. 標準正規分布を, 横に 3 倍, 縦に $1/3$ 倍, 右に 4 平行移動.

ここまで来たよ

5 確率変数の標準化・標準正規分布・一般の正規分布

6 一般の正規分布・多次元の確率変数

- 一般の正規分布
- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 多次元の連続型確率分布

一般の正規分布 $N(b, a^2)$

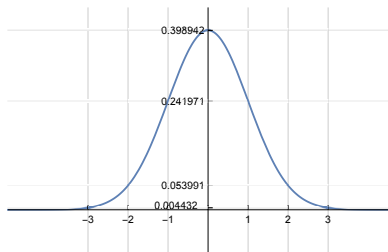
$Z \sim N(0, 1^2)$ に対して, $X = aZ + b$ を考える.

$$E[X^0] = 1,$$

$$\mu = E[X] = E[aZ + b] = b,$$

$$\sigma^2 = V[X] = V[aZ + b] = a^2,$$

$$f_Z(z) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{z^2}{2}} \rightsquigarrow f_X(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi a^2}} e^{-\frac{(x-b)^2}{2a^2}}$$



定義 (一般の正規分布 $N(\mu, \sigma^2)$)

次の確率密度関数を持つ確率変数 X を, 母平均値 μ , 母分散 σ^2 の正規分布 $N(\mu, \sigma^2)$ (normal distribution) にしたがるという.

$$f(x; \mu, \sigma^2) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}}.$$

L06-Q1

Quiz(正規分布の確率)

連続型確率変数 X は, 確率密度関数

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi} \cdot 3^2} e^{-\frac{(x-4)^2}{2 \cdot 3^2}}$$

にしたがう.

- ① $E[X]$ を求めよう.
- ② $V[X]$ を求めよう.
- ③ $f(x)$ のグラフを, 標準正規分布の確率密度関数と重ねて描こう.

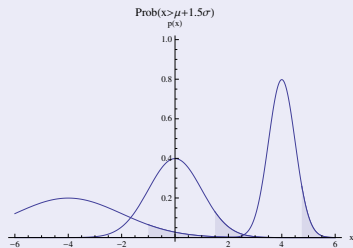
Python でも描いてみよう.

正規分布 $N(\mu, \sigma^2)$ の確率 I

命題 (標準化前後の確率は同じ)

一般に、確率は標準化 $Z = \frac{X-\mu}{\sigma}$ の前後で変わらない。

$$P(c < X \leq d) = P\left(\frac{c-\mu}{\sigma} < \frac{X-\mu}{\sigma} \leq \frac{d-\mu}{\sigma}\right) = P\left(\frac{c-\mu}{\sigma} < Z \leq \frac{d-\mu}{\sigma}\right)$$



斜線部の面積はどれも同じ

標準化しても確率が同じことの別説明 (置換積分)

$X \sim N(\mu, \sigma^2)$ のとき, 積分で $z = \frac{x-\mu}{\sigma}$, $dz = \frac{1}{\sigma}dx$ とすると,

$$\begin{aligned} P(c < X \leq d) &= \int_c^d \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}} dx \\ &= \int_{\frac{c-\mu}{\sigma}}^{\frac{d-\mu}{\sigma}} \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{z^2}{2}} \sigma dz \\ &= P\left(\frac{c-\mu}{\sigma} < Z \leq \frac{d-\mu}{\sigma}\right) \end{aligned}$$

L06-Q2

Quiz(正規分布の確率)

確率変数 $X \sim N(3, 2^2)$, $Z \sim N(0, 1^2)$ とする.

- ① X, Z の確率密度関数の式を書こう. グラフを重ねて描こう.
- ② 母期待値 $E[X^2]$ を求めよう.
- ③ 確率 $P(X > 5) = P(c < Z \leq d)$ となるように c, d を定めよう. また, 確率を Python や表を使って小数で求めよう.
- ④ 確率 $P(+1 < X \leq 7) = P(c \leq Z \leq d)$ となるように c, d を定めよう. また, 確率を Python や表を使って小数で求めよう.
- ⑤ 確率 $P(+3 < X \leq 9) = P(c \leq Z \leq d)$ となるように c, d を定めよう. また, 確率を Python や表を使って小数で求めよう.
- ⑥ 確率 $P(X \leq d) = 3/4$ となる d を, 確率 $P(Z \leq d') = 3/4$ となるような d' で表そう. また, Python や表を使って小数で求めよう.

岩薩林 確率・統計 §4.5 例題 4.10, 4.11, 問題 10, 第 4 章練習問題 5

ここまで来たよ

5 確率変数の標準化・標準正規分布・一般の正規分布

6 一般の正規分布・多次元の確率変数

- 一般の正規分布
- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 多次元の連続型確率分布

2つの離散型確率変数の同時確率分布

高校 数学 B 岩薩林 確率・統計 p.56

例 6枚のカードから無作為に1枚引く. ♡7 ♡8 ♡9 ◇8 ♠9 ♣9

2つの離散型確率変数の同時分布

$X =$ 数, $Y = 0$ (赤札), 1 (黒札) とすると (x, y) を得る確率は2変数の確率関数で書ける. 同時分布, 結合分布, **joint distribution** という.

$$p(x, y) = \begin{cases} \frac{1}{3} & ((x, y) = (8, 0)) \\ \frac{1}{6} & ((x, y) = (9, 0)) \\ \frac{1}{3} & ((x, y) = (9, 1)) \\ \frac{1}{6} & ((x, y) = (7, 0)) \\ 0 & (\text{他}) \end{cases}$$

表で書いた方がまし. ここでは, 「他」は省略.

岩薩林 確率・統計 では, p_{xy} とも.

$P(X = x, Y = y)$ とも. $P(\text{条件})$ 型の表記.

$y \backslash x$	7	8	9	計
0	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{6}$	
1	0	0	$\frac{1}{3}$	
計				

定義 (同時分布の母期待値 岩薩林 確率・統計 (3.16)p.60)

$$E[g(X, Y)] \stackrel{\text{定義}}{=} \sum_{x=-\infty}^{+\infty} \sum_{y=-\infty}^{+\infty} g(x, y) \cdot p(x, y)$$

定義 (同時分布の確率)

条件 $a < X \leq b$ かつ $c < Y \leq d$ で定まる確率は,

$$P(a < X \leq b \text{ かつ } c < Y \leq d) = \sum_{a < x \leq b} \sum_{c < y \leq d} p(x, y) \quad (\text{P2})$$

L06-Q3

Quiz(多変数の確率変数の期待値)

2変数 X, Y の離散型確率分布を考える. 同時分布 $p(x, y)$ が下の表で与えられる.

$y \backslash x$	1	2	3
0	0	$\frac{2}{12}$	$\frac{1}{12}$
2	$\frac{4}{12}$	0	$\frac{5}{12}$

- ① 母期待値 $E[2X^2 + e^Y]$ を求めよう.
- ② 確率 $P(XY \geq 2)$ を求めよう.
- ③ 周辺分布 $p_X(x), p_Y(y)$ を求めよう.

命題 (2次元の確率分布の母期待値の性質 高校 数学 B 岩薩林 確率・統計 (3.17)p.61)

$$E[g_1(X, Y) + g_2(X, Y)] = E[g_1(X, Y)] + E[g_2(X, Y)] \quad (\text{E5})$$

$$\text{特に } E[X + Y] = E[X] + E[Y] \quad (\text{E6, (3.17)})$$

証明

$$\begin{aligned} E[g_1(X, Y) + g_2(X, Y)] &= \sum_x \sum_y (g_1(x, y) + g_2(x, y))p(x, y) \\ &= E[g_1(X, Y)] + E[g_2(X, Y)]. \end{aligned}$$

周辺分布

定義 (確率変数の周辺分布)

同時分布 $p(x, y)$ に対して,
 X の周辺分布 $p_X(x)$, Y の周辺分布 $p_Y(y)$ は,

$$p_X(x) = p(x, \bullet) = \sum_y p(x, y), \quad p_Y(y) = p(\bullet, y) = \sum_x p(x, y)$$

要するに **一方を無視した分布. 小計.**

岩薩林 確率・統計 例題 3.4(p.57)

$y \backslash x$	7	8	9	計
0	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{6}$	
1	0	0	$\frac{1}{3}$	
計				

命題 (X だけ, Y だけの関数の母期待値)

x だけ, y だけの関数の母期待値は,
下の左辺= 同時分布 で計算しても
下の右辺= 周辺分布 で計算しても
同じ結果.

$$E[g(X)] = \sum_x \sum_y g(x) \cdot p(x, y) = \sum_x g(x) \sum_y p(x, y) = \sum_x g(x) \cdot p_X(x)$$

$$E[g(Y)] = \sum_y \sum_x g(y) \cdot p(x, y) = \sum_y g(y) \sum_x p(x, y) = \sum_y g(y) \cdot p_Y(y)$$

L06-Q4

Quiz

さっきの問で

- ① 周辺分布を求めよう.
- ② 周辺分布から $E[2X^2 + e^Y]$ を求めよう.
- ③ 母分散 $V[X]$ を求めよう.

ここまで来たよ

5 確率変数の標準化・標準正規分布・一般の正規分布

6 一般の正規分布・多次元の確率変数

- 一般の正規分布
- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 多次元の連続型確率分布

母共分散 高校 数学 B

定義 (母共分散 covariance 岩薩林 確率・統計 (3.19)p.61,(3.20)p.62)

X, Y が確率変数で, $\mu_X = E[X], \mu_Y = E[Y]$ とおいたとき,

$$\text{母共分散 Cov}[X, Y] \stackrel{\text{定義}}{=} E[(X - \mu_X)(Y - \mu_Y)] \quad (3.19)$$

$$= \text{岩薩林 確率・統計 (3.20)} \cdots = E[XY] - E[X] \times E[Y]. \quad (\text{C1}, (3.20))$$

L06-Q5

母共分散

さっきの問で

- ① 母期待値 $E[XY]$ を求めよう.
- ② 母共分散 $\text{Cov}[X, Y]$ を求めよう.

2次元の確率分布の母期待値のよくある間違い

$$E[g(X, Y)] \neq g(E[X], E[Y])$$

だって, $\sin(\log_x y) \neq \log_{\sin x}(\sin y)$ じゃん.

特に $E[X \times Y] \neq E[X] \times E[Y]$. \times を, $+$ と区別しよう.

2次元の確率分布の母分散のよくある間違い

$$V[X + Y] \neq V[X] + V[Y]$$

母分散を, 母期待値と区別しよう.

L06-Q6

母分散

さっきの問で母分散 $V[X + Y]$ を求めよう.

ここまで来たよ

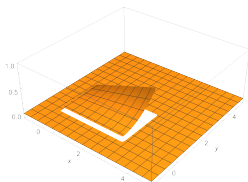
5 確率変数の標準化・標準正規分布・一般の正規分布

6 一般の正規分布・多次元の確率変数

- 一般の正規分布
- 2次元の確率分布
- 母共分散
- 多次元の連続型確率分布

多次元の連続型確率分布 岩薩林 確率・統計 §4.6

2次元の同時確率密度関数 $f(x, y)$.
 $f(x, y) \geq 0$, 大きいほど, その (x, y) が
 「出やすい」



定義 (連続型次元確率変数の母期待値 岩薩林 確率・統計 SS3.3,4.6)

$$\text{離散型} \quad E[g(X, Y)] = \sum_x \sum_y g(x, y) \cdot p(x, y) \quad (3.16)$$

$$\text{連続型} \quad E[g(X, Y)] = \int_{-\infty}^{+\infty} \int_{-\infty}^{+\infty} g(x, y) \cdot f(x, y) \, dx dy \quad (4.32)$$

確率 $P(a < X \leq b \text{ かつ } c < Y \leq d) = \int_a^b (\int_c^d f(x, y) dy) dx$. 平面の領域上にある部分の体積.